



米子市長定例記者会見資料	
令和5年10月13日	
担当課 (担当者)	学校教育課 西村
電話 (0859) 23-5432	

報道機関 各位

「教育支援センター～ぷらっとホーム～」について

令和4年8月に開所した「教育支援センター～ぷらっとホーム～」の1年間の取組及び成果・課題等について、以下のとおり報告します。

1 取組

(1)学習支援

- ・ICTを活用した学習支援（一人一台端末、学習アプリ「すらら」等の活用）
- ・個々の学びの状況に応じた学習支援
- ・各テストの受験環境整備

(2)創作体験活動

- ・支援員による活動支援（毛筆、硬筆、水彩、切り絵、木工、版画、プログラミング、裁縫、手芸、調理 等）
- ・外部講師による体験活動（プログラミング教室、臨床美術教室、そば打ち体験教室、陶芸教室、インテリアコーディネート体験、ボッチャ体験 等）

(3)地域での学習

- ・淀江、白鳳の里周辺散策
- ・城山散策、プラネタリウム見学
- ・境漁港、水木しげる記念館見学
- ・スキー体験
- ・大山赤松の池カヌー体験
- ・城下町（加茂川周辺・山陰歴史館）散策
- ・米子水鳥公園の野鳥観察としおり制作 等

(4)児童生徒同士のコミュニケーション活動

(5)児童生徒・保護者との相談活動

(6)運動や音楽等の個人活動

(7)学校やスクールソーシャルワーカーとの連携による支援

2 利用児童生徒

(1)令和4年度

①利用児童生徒数 37名（小学生20名、中学生17名）

※令和3年度「米子フレンドリールーム」利用児童生徒数13名

②中学3年生進学率 100%

③学校復帰児童生徒 17名 ※令和5年1学期末現在（令和4年度内復帰6名）

(2)令和5年度（9月末現在）

①利用児童生徒数 19名（小学生7名、中学生12名）

裏面をご覧ください

3 成果と課題

開所以来、相談件数、利用児童生徒数ともに増加し、多様な学びの場の1つとしての役割を果たしてきている。常駐する支援員を3名から4名に増員し、令和5年3月に利用スペースを拡充した。

学習支援の他、創作活動や体験活動、コミュニケーション活動を取り入れることで、家から一歩踏み出す意欲や他者と関わりながら生活することへの自信につながり、利用回数や時間の増加につながった。

さらに、学校やスクールソーシャルワーカーと連携することで、利用する児童生徒への支援を効果的に行うことができ、学校復帰のきっかけづくりや進路保障の実現に結びつけた。

また、学校に通いづらい子どもの居場所、学びの場として「教育支援センター～ぷらっとホーム～」のほか、校内の居場所づくりとして「校内サポート教室」を市内1小学校と8中学校（県事業2校・市事業6校・組合事業1校）に設置している。様々な理由で学校に行きづらくなっている子どもたちに多様な選択肢を提供するとともに、学校復帰を希望する子どもに対しては、「教育支援センター～ぷらっとホーム～」と「校内サポート教室」が連携し、スムーズな復帰になるよう努めている。

近年の不登校児童生徒が増加している状況に鑑み、利用を希望する児童生徒の増加や多様化が予測されることから、より一層の体制整備と支援内容の充実を図る必要がある。

4 問い合わせ先

米子市教育委員会事務局学校教育課 西村
電話番号 (0859) 23-5432